清田祐一郎さんを偲ぶ関西の友人たちの集い

プログラム

日　時　：　2007/5/30　PM6：00～8：30
会　場　：　後楽園・涵徳亭

(1)　司会者開会あいさつ：高幣真公

(2)　清田祐一郎氏の生涯：新開純也

(3)　黙とう・献杯：渥美文夫

(4)　会食

(5)　清田氏の思い出：30名　各3分（氏名のあいうえお順）

司会：芹生琢也、横山　立

(6)　閉会あいさつ：浦野正彦

＊　全員の記念撮影

出席者予定者（30名）

芦原　正彦	味岡　　修	渥美　文夫	生田　あい	今川　健一
井村　哲郎	岩田　吾郎	尾末　　匡	川俣　　博	佐藤　秋雄
佐藤　浩一	塩見　孝也	茂田　一義	白川　真澄	新開　純也
芹生　啄也	高橋　道郎	高幣　真公	竹内　陽一	田中　章雅
中岡　基明	奈良本英祐	西村　裕紘	福富　　健	藤本　昌昭
目黒　有史	森本　康弘	八木　健彦	横山　　立	渡辺　義明

この後

2次会（午後9時～10時30分）あります

「川端」（飯田橋駅前　03-3260-3849）　受付に地図あり

会費　¥2,000

清田祐一郎さんを偲ぶ

関西の友人たちの集い

（2007/5/30 東京・後楽園「涵徳亭」）

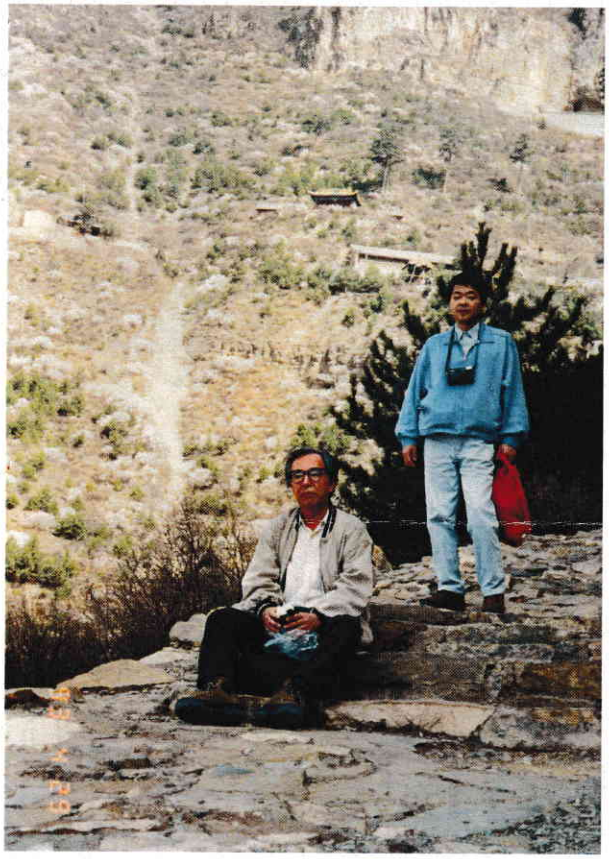
告別式（2006/4/20　クレリ芦屋ホール）
左上・弔辞を述べる新開さん
左下・式場は若い塾生が多かった
上・泣きながら弔辞を読んだ塾生たち
下・長男の清田雄高さん

喉頭がんから回復して快気祝い（2004 年 7 月）

山田孝追悼会（2003 年 11 月）で声が出ず、挨拶を断った（手前テーブル正面が清田氏）

1980～90 年代の写真　（高見邦雄氏提供）

毛沢東思想学院創立 15 周年訪中団に参加
（1982 年 10 月）中国東北地方で
上・　手前は平坂氏と井上清団長
右・　団員の記念写真



中国大同市北岳恒山　（1993 年 4 月）

上・　毛沢東の元秘書・逢先知さん歓迎会（1987 年 9 月）
下・　大阪港見学（1982 年）

名物塾 惜しまれ閉鎖

偏差値より人間教育

塾長他界1年

芦屋 OB「いつか再開を」

「困っている人に手を差し伸べる大人になれ」と、学力だけでなく、人間性の向上を目指す授業を実践してきた兵庫県芦屋市の名物学習塾「京大教研芦屋学習塾」が、閉鎖された。21年前に塾を開いた塾長の清田祐一郎さんが昨年4月に66歳で他界。「残された生徒たちが進学するまでは」と塾生OBらが運営を続け、今春、最後の5人を送り出した。周囲でしのぎを削る偏差値重視の進学塾とは違う「清田教育」を「本物の『知識』とは何かを生徒にも親にも教えてくれた」と、関係者は惜しむ。

清田さんは熊本県出身で京都大法学部を卒業。1960年代に学生運動に参加し、職を転々とした末、86年にJR芦屋駅北側の雑居ビルの一室で塾を開いた。

「私の塾は部員9人の野球チーム。個々の能力向上も必要だが、一番下手な選手を手助けしなければチームとして成り立たない。そんな集団を目指します」

勧誘チラシに毎春、そんな教育方針をつづった。効率よく学力を向上させるより「生徒同士が助け合ったり教え合ったりする精神」を重視。1人の講師が学年も学力も違う生徒4～5人を教えるスタイルで毎年、中高生ら約40人が学んだ。

▲清田さんの遺影を前に思い出を語る「京大教研芦屋学習塾」の塾生OBの小野さん（右端）ら（兵庫県芦屋市で）

95年の阪神大震災でビルが全壊、近くの別のビルに移った。清田さんは震災孤児となった生徒の世話に奔走。他の生徒たちも「芦屋市民学生救援隊」をつくって、救援物資を避難所や独居のお年寄りらに配った。

「昔と比べ、子どもたちが社会への関心を失ってしまった」と嘆くことの多かった清田さんだが、同年のチラシには「いつの時代も機会と条件が整えば、若者たちは年配者の危惧を突き破っていくのだと学ばされました」と書いた。

「大事なのは試験で吐き出すだけの薄っぺらい『知っていること』じゃなく、感性を豊かにする『知識』だ」「小手先や上辺の知識でなく、全能力と全人格をかけて子どもたちにかかわりたい」などと言い、講義はよく脱線。ドイツのことを書いた英文を教えながらベートーベンやゲーテについて論じたり、少子高齢化やものづくり現場を冷遇することの弊害など時事問題を取り上げたりした。

生徒たちからも「おっさん」などと慕われたが、前立腺がんを発症して2年後、医師、教師などになった教え子に囲まれ、入院先で息を引き取った。

「生徒を決して子ども扱いせず、一人の人間として向き合ってくれた」と、同塾に7年間、通った大学生で講師の小野信一さん(23)は振り返る。「清田教育」の灯を守ろうと後を継いだが、生徒の減少などで運営は厳しく、1年間が精いっぱいだった。「いつの日か再開させたい」という。

「チラシの言葉に共感して子ども2人を通わせた」という芦屋市在住の映画監督の大森一樹さんは「清田さんと意気投合して酒を酌み交わしたりもした。受験テクニックよりもっと大切なものが学べ、精神的なゆとりを大切にする芦屋の気風に合う塾だった。『清田精神』が途絶えるのは寂しい」と話している。

「読売新聞」 2007年5月24日夕刊

清田祐一郎　執筆文献リスト

2007/2/3

NO.	発行・執筆日	掲載紙・研究会	タイトル	ージ・字数）	署名	備考	選考
	1965/12/1	『烽火』 39-40号	南ベトナム闘争　それは何か	6000字	永井武夫		
102	1968/2/19	『労働者もヘルメットをかぶった・佐世保7日間の闘いの記	「激動の一週間を終わって一闘いの総括と展望」	10,000字	清田祐一郎		
	1968/8/5	『新左翼』	8.4反戦集会に闘う思想の結集を	800字	清田祐一郎		
101	1972/2/1・15	『烽火』 268・9号	体系的な非合法党一勝利の党をめざし戦士＝組織者たる革命家の集団へ同盟を打ち鍛えよ	10,000字	共産主義者同盟政治局		
001	1982/10/1	『学院ニュース』183	記念訪中団、12日出発―　社会主義についての学習を中心に	800字	なし		
002	1982/11/10	『学院ニュース』184	予想を上回る収穫（訪中報告）	1000字	清田祐一郎		
003	1983/3/1	『学院ニュース』188	マルクス主義著作額集会に参加を－学習を始めるに当って	800字	清田祐一郎		
004	1983/9/1	『学院ニュース』194	大塚有章先生をしのぶ　―70年闘争と大塚先生	1000字	清田祐一郎		
005	1987/8/1	『学院ニュース』241	大きな成果と今後への意欲　社会主義研究会全予定終了	800字	清田祐一郎		
006	1987/9/1	『学院ニュース』242	日本の今後と社会主義の課題	12,000字	清田祐一郎		
009	1988/3/7	「土曜会」討議資料	現代社会主義の省察	27,000字	清田祐一郎		
010	1988/4/7	「土曜会」13回例会の記録	社会主義について（2）	8,000字	不明		
007	1990/2/1	『学院ニュース』271	東欧の事態と社会主義	12,000字	清田祐一郎		
	1990/8、9	『人民新聞』726,727,728号	社会主義理論を根底的に問い返すために	8000字	清田祐一郎		